

令和4年度 石川県立小松特別支援学校 自己評価計画書

石川県立小松特別支援学校

重点目標	具体的取り組み	主担当	現 状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考
1 指導力の向上	【ICT活用による授業改善】 タブレット端末を授業の充実のためのツールとして活用し、個別最適な学びと協働的な学びの実現を図る。	教務課 全学部	ICTを活用した効果的な授業展開や教材を検討しながら、実践の成果と課題の整理に取り組んでいる。今後はさらに、児童生徒の資質・能力を育成するためのツールとしてICTを活用し、授業改善の取り組みを進める必要がある。	【努力指標】 タブレット端末を、授業の目的を達成するための手段として活用している。	タブレット端末を、授業の目標を達成するための手段として活用できたと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	評価者：教員
	【取り組みの情報発信】 ICT活用や教科指導の取り組み等を、通信やホームページ等で定期的に発信し、家庭や地域に周知する。	情報課	ICT活用や教科指導の取り組みを保護者や地域の方々にホームページ等で伝えたり、授業参観を実施したりして周知し、理解や協力を得ながら取り組みを進めていく必要がある。	【満足度指標】 授業や家庭学習等でのタブレット端末の活用が、児童生徒の学習の理解を進めるために効果があると感じられる。  (保護者アンケート)	授業参観やホームページにより学習の様子がわかり、タブレット端末を使った学習に効果があると感じる保護者の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	評価者：保護者
	【研修の充実】 ICT活用と新学習指導要領を踏まえた教科指導の充実のため、外部講師も活用して研修の充実に取り組む。	研修 研究課	校内研修においてはICT活用力を磨いてきたが、今後は授業の目標達成のためにタブレット端末を効果的に活用し、授業の充実を図っていく。外部講師から指導や助言を得て、授業づくりに生かしたい。	【成果指標】 研修での学びを授業に取り入れれたり、講師の助言を参考に自分の授業を改善したりする。	研修での学びを授業に取り入れて、または助言を生かして授業改善ができた教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	評価者：教員
2 災害に備える	【危機管理体制の更新と防災教育の充実】 防災教育年間指導計画の見直しと更新を行い、系統的・計画的な防災教育に取り組む。	学校 安全課 全学部	昨年度は、防災教育年間指導計画に沿って実施したことにより、児童生徒の防災意識を高め、具体的な行動への理解が進んだ。昨年度の課題を整理し、引継ぎを生かしながら、各部の系統性を見直し、児童生徒が主体的に防災教育に取り組めるよう、より充実するように計画をする。また、社会の情勢に合わせて刷新していく。	【成果指標】 発達段階に応じた防災教育を実施し、児童生徒の防災意識が高まったり、主体的に防災学習に取り組んだりしている。	児童生徒の防災意識がより高まり、主体的に防災学習に取り組むことができたと感じる教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	評価者：教員
				【満足度指標】 学校の防災教育への取り組みに満足している。  (保護者アンケート)	防災、安全教育の取り組みについて満足している保護者の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	評価者：保護者
3 コロナ禍と生徒増を踏まえた体制整備	【基本的な感染症対策の継続】 学部に応じた指導内容を定め、児童生徒が感染症について正しく理解し、予防に主体的に取り組む。	保健 体育課	これまでの様々な取り組みにより感染症対策は定着してきたが、最近はこの生活様式に慣れ、少しずつ意識が薄れてきているように感じられる。児童生徒の感染症対策に対する意識を維持していく必要がある。	【満足度指標】 感染症について、児童生徒の発達段階に応じた指導を適切に行っている。	児童生徒が感染症について正しく理解し、感染予防ができるよう継続した指導を行っている教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	評価者：教員
	【行事等の工夫】 コロナ禍での儀式的・体育的・文化的行事を、実情に合わせて工夫して行う。	生徒課 総務課	コロナ禍での各行事の感染症対策を行う上で、児童生徒が一同に集まり行事を実施することが難しくなっている。さらに、児童生徒数増もあり、より工夫して行事を計画することが必要である。	【努力指標】 コロナに対応して行事の実施方法や会場等について課題を整理し、工夫して実施する。	行事の実施についてコロナに対応した課題の整理や工夫ができたと感じた教員の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	評価者：教員
4 業務の改善	【業務の効率化】 業務について課題を整理し、ICT活用を図りながら課の実情に応じた課題解決を目指す、業務の効率化に取り組む。	教頭 各課	個人目標を設定したことで意識が高まり、業務の効率化を図ることができた。各課の実情に応じて課題を整理し、業務の効率化と改善に取り組む必要がある。	【成果目標】 各課の課題を整理し、業務の効率化、改善に向けて目標を設定して取り組む。	業務の効率化、改善に向け各課の実情に応じた目標を設定し、改善を図ることができた課の割合は A 80%以上 B 70%以上 C 60%以上 D 60%未満	B以上で達成	評価者：教員